

## 越後佐渡おもしろ歴史ばなし

## 会越八十里越山道ノ図

八十里越は、新潟県三条市から福島県只見町へ越後山脈を越える古道で、実距離は約八里（約31km）であるにもかかわらず、その険しさから“一里が十里のように感じられる”ことに由来するとされます。

当館では、文字資料としての古文書だけでなく、絵図・古地図なども所蔵しています。「会越八十里越山道ノ図」は、「新潟県史 資料編7 近世二（1981）」の口絵としても掲載されています。

この資料に描かれた八十里越の時期については、この資料が「越後各地文書 - 水原町佐藤友右衛門家文書」（享保～明治10年頃）の一資料で、文書群の時代幅からは、江戸後期～幕末の作成と考えられます。

また、八十里越の改修史をふまえると、天保の大飢饉を背景に、より円滑な輸送ルートとしての役割が期待され、牛馬が往来できる道への改修が行われた天保14年（1843）の大改修後の「八十里越」を描いた絵図の可能性があります。

八十里越はまた、幕末期の北越戊辰戦争において、長岡藩家老・河井継之助が会津への移動を試みた際にも通行した道として知られていま

す。継之助は負傷した身体を抱えながら吉ヶ平から峠に入り只見へ至りました。この絵図が天保期の改修後の「八十里越」を描いたものだと考えると、河井継之助は、この絵図のルートを通り会津を目指したということになります。

「八十里越」はその後、明治14年（1881）と明治22～27年（1889～94）の改修工事を経ます。このことは、「八十里越」は南会津地域と越後を結ぶ経済的・人的交流上の重要ルートだったことを示唆します。

大正3年（1914）に岩越線（現磐越西線）が全通したことで、物資や商品の輸送が八十里越から鉄道へと移行し、八十里越は衰退・荒廃しました。その後、戦後の高度経済成長期を経て、日本列島を縦横に結ぶ道路網の建設が進む中で、本州を横断する新潟市といわき市までの幹線ルートである国道289号中の区間として、八十里越が「歴史の道」としても再び注目されています。

八十里越が、時を越えて、越後-会津間の経済的・人的交流を一層進展させることが期待されています。

## 【出典・参考文献等】

[国土交通省北陸地方整備局長岡国道事務所「国道289号八十里越」](#)

[三条市「歴史の道 八十里越」](#)

[轡田克史『福島県史料情報 第13号 八十里越改修史』福島県歴史資料館 2005](#)



【会越八十里越山道ノ図】（請求番号：E0806-8-364）

# ◇令和7年度 特別企画展 「近代の戦争と新潟 — 戦後80年 昭和の戦争と県民の暮らし —」

令和7年10月21日（火）から11月9日（日）の期間にて、特別企画展「近代の戦争と新潟 — 戦後80年 昭和の戦争と県民の暮らし —」を開催しました。展示の概要を紹介します。

## 〈エントランス展示〉

1階エントランスでは、満州事変以後、新潟県下で戦時体制がどのように形成されていったかを、県や市町村の行政担当者や町内会、青少年団などの地域の指導者が残した資料を中心に展示しました。

## 〈閲覧室展示〉

### 1. 「兵士」として

戦地の兵士が家族に宛てた手紙や、「第三十三病院船阿蘇丸」、柏崎市の赤坂山にあった「傷痕軍人新潟療養所」の関係資料などを展示し、日常を生きる青年たちが兵士になる過程や、戦地での体験、その後の状況について多角的に紹介しました。

### 2. 満州開拓と新潟県

「昭和戦前柏崎市政文書」などを中心に、新潟県の満州開拓団送出の歴史と、開拓団の結成及び送出の過程を展示しました。また、引揚げの過酷な状況を当時の地域資料を交えて紹介しました。

### 3. 戦争と地域社会

戦争遂行に協力を強いられていく地域の様子を、ポスターや配給切符などの行政資料を通して紹介しました。また、当時を生きる人々の暮らしや思いを想像していただけるよう、『坂井清衛日記』などの手記も展示しました。

### 4. 戦争と学校

戦時下の教材、学級日誌などを通して戦争の長期化が学校現場に与えた影響について紹介しました。また、終戦直後の県立高田中学校（現高田高校）が発出した資料から急激な社会の変化に対応しようとした教育現場の様子も併せて紹介しました。

### 5. 戦前・戦中の教科書を読んで（中学生企画）

職場体験に来てくれた新潟市立鳥屋野中学校の生徒さん3名が、古文書の整理やクリーニング、講座運営の手伝いなど、文書館の業務の一端を体験しました。そして、文書館が所蔵する戦前・戦中の教科書から数冊選んでもらい、その歴史的な背景を調べたうえで、読書感想文を書いてもらいました。令和の中学生は、80年以上前の「学び」にどんな感想を持ったのでしょうか。





## ◇令和7年度 第1回～第3回企画展 紹介

令和7年度は「近代の戦争と新潟」と題しまして、戊辰戦争期、徴兵制導入から日清戦争期、日露戦争期の文書群を文書館所蔵資料の中からご紹介しました。各回の企画内容は以下のとおりです。  
 ※文書群＝特定の家の所蔵資料、特定個人の収集資料、同地域の資料など、一まとめにして分類している資料。

一例として、当館では「E〇〇〇〇 -」や「F〇〇 -」として整理。

- 第1回 「北越戊辰戦争と越後の人々」  
 [5月27日(火)から9月15日(月)まで]
- 第2回 「「皇国」兵士の誕生 ー徴兵制と日清戦争ー」  
 [9月17日(水)から1月25日(日)まで]
- 第3回 「新潟県民の手紙から見る日露戦争」  
 [1月27日(火)から5月24日(日)まで]



令和7年度企画展「近代の戦争と新潟」第3回

はじめに ～日本と日露戦争～

多くの日本人にとって戦争といえば太平洋戦争であり、戦争末期の悲惨な状況を連想させます。しかし、日本は明治期に日清戦争・日露戦争に勝利し、新たな領土のほか、多くの利権を得るなど、国民が奮闘した経験をしました。また、日清戦争に比べ日露戦争の軍事郵便は数多く残されており、太平洋戦争時と比べ、戦況に関する検閲も甘く現地での様子がより詳細に記載されている手紙も多く見ることが出来ます。今回の展示では戦地からの手紙を中心に、新潟県民から見た日露戦争の様子をうかがっていきます。

会期 令和8年1月27日(火) ▶ 令和8年5月24日(日)

会場 新潟県立文書館閲覧室(2階)  
及び図書館エントランスホール

新潟県立文書館  
〒950-8602  
新潟市中央区女池南3丁目1番2号  
TEL 025-284-6011  
FAX 025-284-8737  
URL <http://www.pref-lib.niigata.niigata.jp>  
E-mail [archives@mail.pref-lib.niigata.niigata.jp](mailto:archives@mail.pref-lib.niigata.niigata.jp)

新潟県民の手紙から見る  
日露戦争

## ◇令和7年度 古文書整理ボランティア活動報告

県立文書館では、歴史や古文書に興味のある幅広い年齢層の方を対象に、所蔵文書の整理をお手伝いいただいております。休館日(原則として月曜日)の午前(10時～12時)及び午後(2時～4時)に活動しております。活動時間はどちらか選べます。ご興味のある方は、当館アドレス([archives@mail.pref-lib.niigata.niigata.jp](mailto:archives@mail.pref-lib.niigata.niigata.jp))にメールで、もしくは当館代表電話(025-284-6011)までご連絡ください。

さて、今年度は昨年度に引き続き、小千谷市の旧家である西脇家の古文書をクリーニングし、封筒に仕分けました。活動している皆さまの声を以下にご紹介します(広野)。

## Q1.古文書整理ボランティアに参加した感想をお聞かせください。

「古い文書のクリーニングをしています。色々な時代の手紙、土地の所有書、小作料の証書、戦争に関するもの、有力者間の交際や紛争など多岐に渡ります。作業をしていると、その時代に生きた人々と直接触れ合っているような気持ちになり、タイムスリップ感を味わえます。私にとって貴重な時間であり、楽しんでます。」

「虫食いと格闘しながらも横帳などボリュームのあるものは書き手の癖が分かってきて、終わりの方になると不思議と読めてくる。当時の暮らしが見えてきて楽しい。ただ、当時の手紙は字のくずしが独特で難しい。早く読めるようになりたい。」

「ほんの少しでも本格的な整理に役立っているのかとも思い、作業することが楽しいです。」

「古文書の整理は経験したことがあります。くつついてしまった横帳の対処、整理番号の振り方など、とても勉強になりました。」

「ばらけた資料のどれを1点とするか、判断が大変だった。その資料がどう扱われてきて、どのように保管されていたのか状態が垣間見えて面白かった。」

「古文書解読に興味を持って4年。未整理の古文書がどのようなものか知りたくてボランティアに応募しました。専門家ではない私たちができる作業は文書について埃（紙魚の糞や死骸または空気中のチリなどの積もった汚れ）を払って、封筒に仕分ける作業で難しいものではありません。その埃も100年以上も前のものだと思うと、貴重で愛おしくさえ思えるから不思議です。この作業の後で専門職員が一枚一枚を研究し、歴史的評価をしていきます。私たちがその学術的作業の「露払い」をしていると思えば愉快に感じます。」

(文書館注:ボランティアの方が整理した文書は、文書館職員の手で目録が作成され、後日閲覧できるよう準備が進められております。)

## Q2.整理作業中に発見した面白い古文書はどれですか。

「昭和時代初期の戦没者遺児への靖国神社での式典の招待状一式です。ボランティアを始めた頃にこの文書に出会って、その時代の空気感を感じて印象に残っています。」

「西脇商店の江戸時代から昭和時代初期の文書を整理しています。読めた文字から推察すると、西脇商店は商業だけではなく、名主？や町の世話役、金融業など様々な社会的役割を担っていたことが分かりました。今後も整理作業をする中で、新たな発見や想像を得られることを楽しみにしています。」

「中蒲原郡吉沢村（現在の五泉市）の小出家文書の整理。小出家は染物屋？文書はとても面白かった。また、現在整理中の西脇家文書は書庫の中に段ボール箱に山積みになっていたのを見学させてもらった。佐渡の旧家の文書を整理した時。江戸時代に、佐渡に巡業に来た芝居の宣伝書きの裏に、旧家が必要なことをメモ書きしていたのが印象的だった。」

## Q3.今、ハマっている歴史関係のモノを教えてください。

「閲覧室にある市町村史で、自分の生家や職場があった町の歴史を読む。興味深い事件や人が書いてあったらメモし、あとでゆかりの地をドライブしています。」

「最近、長岡の城下町がどう造られてきたのか、絵図や考古学の資料を頼りにして調べています。今の街並みとどうつながっているのか、街のおおもとをつかめそうな気がして面白いです。今度は村上や米沢、福井も調べてみたいと思います。」



〈ボランティア整理作業の様子〉

## 令和8年度 文書館主催講座一覧

### 【古文書解読講座】

講座名	期日	会場	定員	申込開始日
はじめての古文書講座（春季）	5/16、23、30（土）	大研修室	30名	4/15（水）
はじめての古文書講座（秋季）	11/14、21、28（土）	大研修室	30名	10/14（水）
古文書解読講座（夏季）	A 7/ 1、15（水） B 7/ 3、17（金）	大研修室	45名	5/27（水）
古文書解読講座（冬季）	A 12/ 2、 9（水） B 12/ 4、11（金）	大研修室	45名	11/ 4（水）
古文書輪読会 ※中・上級者向け	6月～2月（計8回） （月に1回ペース） 6/24、7/22、8/19、 10/14、11/18、12/16、 1/13、2/24（水）	大研修室	20名	5/20（水）

※ 時間はいずれも午後1時30分から午後3時30分までの2時間です。

※ 各講座ともテキスト代として、100円が必要です(古文書輪読会は500円)。

※ 古文書解読講座については、A・Bコースともに同じ講師、同じ内容です。

### 【文書館歴史講演会】 ※講師は県内外の歴史研究者を予定しています。受講料無料

期日	時間	会場	定員	申込開始日
10/31（土）	13：30～15：30	ホール	180名	9/30（水）

### 【特別企画展解説講座】

期日	時間	会場	定員	申込開始日
11/ 8（日）	13：30～14：30	閲覧室	20名	10/ 7（水）

◇ 日程及び定員は、令和7年度末時点での予定です。今後、変更する可能性がありますので、詳しくは申込開始時の各講座のチラシをご確認ください。

## アーキビスト 文書館職員随想

今年度当館では、新潟県立図書館の協力を得て、越後佐渡デジタルライブラリーに、「学校で使える歴史資料」を掲載するための準備を始めた。当館が所蔵する資料を学校現場で活用してもらうための新たな試みである。新潟県内の学校では生徒一人一人にタブレットが支給されるようになり、越後佐渡デジタルライブラリーのようなデジタルアーカイブを授業で活用する機会が今後ますます増えてくると思われる。

難しいのは、授業で活用しやすい資料の選定である。生徒たちは新潟県の歴史を中心に学んでいるわけではないので、日常の授業に活かせて、かつ教育効果のある資料を選定しなければな

らない。またどんなに興味深い内容の資料でも、解読が困難な古文書は授業での活用が難しい。

幸い当館は教育庁の所管であり、教員籍の職員が勤務している。実際に学校現場で生徒に教えることを想定しながら、生徒の興味・関心を引き付け、学ぶ意欲を高めるような資料を選定していきたい。(井上記)

編集・発行 **新潟県立文書館**  
〒950-8602 新潟市中央区女池南3丁目1番2号  
TEL 025-284-6011 FAX 025-284-8737  
E-mail archives@mail.pref-lib.niigata.niigata.jp